

# 地域イメージの捉え方とエレメントの変化について～いわき市を対象として～

福島工業高等専門学校 学生会員 ○佐藤優海  
正会員 齊藤充弘

## 1. はじめに

東日本大震災からの復旧・復興にむけては、地域住民が一丸となって臨む姿勢が求められる。短期的な目標となる復旧する地域の姿と長期的な目標となる復興した地域の姿を描き、そのイメージを共有し、目標に向かうことが必要である。大震災後には、地元の復旧・復興に携わりたいとの意思を示す若者も多くみることができ、地域に対して抱くイメージが注目された。性別や年代、職業など多様な属性に基づく人々が住まい、活動する地域のイメージを抽出し、共通な部分や異なる部分を明らかにすることは、まちづくりにおいて重要であるといえることができる<sup>1), 2)</sup>。

本研究は、大震災からの復旧・復興の過程にある福島県いわき市を対象として、地域イメージの捉え方とそのイメージを構成するエレメントを明らかにし、その変化を追究することを目的とするものである。

## 2. 研究の対象と方法

### 2.1 研究対象と先行調査・研究のレビュー

いわき市は、昭和の大合併（1966年10月に5市4町5村が合併）後45年が経過した、福島県浜通りの南部に位置する、茨城県と隣接する太平洋沿岸から内陸は阿武隈山系にまでかかる面積1,231.3km<sup>2</sup>のかつては日本一の広域合併都市である。合併後45年が経過しているものの、未だ旧市町村単位による見方や活動が多く、いわき市としての一体化したイメージをいかに共有することができるかを課題として、これまでに複数の調査・研究が行われている。

広域合併前の14地区に着目し、住民の抱く地域イメージについてアプローチした調査・研究<sup>3)</sup>により、「市域全体として統一されたイメージというよりは、地区ごとに地域イメージは異なっている現状」を明らかにされている。また、中学生と高校生の若年代を対象として同じく地域のイメージにアプローチした調査・研究<sup>4)</sup>により、「年齢により想起イメージが異なること」がわかっている。また、「いわき市が好きという評価が高い人ほど、多くのイメージを想起していること」がわかっている。さらに、イメージマップの作成を通して、「いわき市全体をイメージして地図を作成することはなかなかできておらず、居住している地区や通勤・通学先の地区を中心として地図を作成する形が大部分であり、地区毎に地域の捉え方に違いがあるということ」がわかっている。

### 2.2 研究方法

本研究は、高専5年生（20歳前後）を対象として実施した地域イメージに関する調査について、2003年～2012年まで10年分のデータの集計とその経年分析を通して、この年齢層の地域イメージの捉え方とそのイメージを構成するエレメントを明らかにし、変化について追究していく。調査の概要を表1に示す。地域イメージを構成する要素（エレメント）及び描いたイメ

表1 調査の概要

調査データ (調査年)	2003年～2012年
対象	高専5年生(1クラス平均40名)
調査項目	いわき市について ・思い浮かぶもの ・記憶に残るもの ・大切なもの ・どのくらい好きか(5段階) ・好きなもの ・嫌いなもの ・特色ある部分 ・変えたいところ ・いわき市の地図を書く ・属性(性別、年齢、居住地区、通勤・通学先)
回答形式	自由回答法・記入形式
調査方法	集合・配票調査法

イメージマップについて分析することにより、いわき市としての地域イメージについて追究していく。

## 3. 地域イメージの捉え方と変化

### 3.1 想起エレメント

「いわき市について、思い浮かぶもの」を想起イメージとして捉えて集計・分析した。その結果、図1において2012年をみても、「海」（想起数16）が最も多く抽出された。先行調査・研究と同様に、いわき市の豊かな自然の中でも海をイメージする人が多いことがわかる。次いで、「アクアマリン」（同9）、「ハワイアンズ」（同7）となっており、豊かな自然環境を活かした観光施設が多く想起されていることがわかる。このことについて、2003年以降、経年的にみても、「海」については2003年においても想起数16と最も多く、調査年を通して最も想起数が多い形となっている。このことより、「海」はいわき市を表す重要なエレメントであるといえることができる。「アクアマリン」についてみても、近年、想起数が多い結果となっている。沿岸の観光施設である「アクアマリンふくしま」は、東日本大震災による津波の大きな被害を受けたものの、2011年7月に再開し、復旧・復興の過程におけるシンボルとなっているものである。また、2003年当

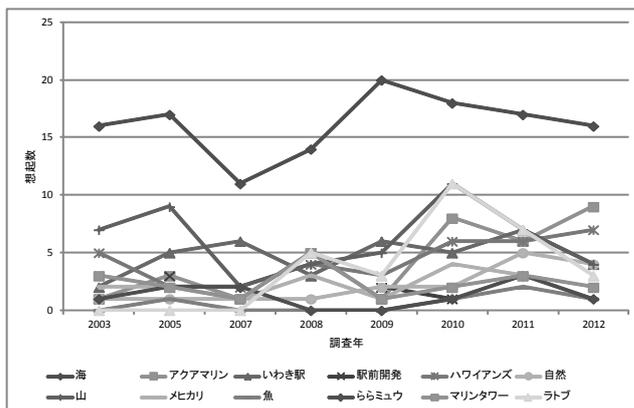


図1 主な想起エレメントの変化

キーワード：地域イメージ、イメージ変化、イメージマップ、まちづくり

連絡先：〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30 福島工業高等専門学校建設環境工学科 TEL 0246-46-0830

初はなかったものの、いわき駅前市街地再開発事業に伴い建設され、2007年に完成された再開発ビル（ラトブ）が2008年より想起されていることがわかる。「いわき駅」や「駅前開発」も想起されており、再開発事業の進捗とともに想起数が多くなっているのを見ることが出来る。

### 3.2 地域イメージの抽出

各イメージの集計結果より、調査項目ごとに多くあげられているイメージを抽出し、複数の項目において抽出されたイメージをいわき市の地域イメージとして捉えてみたものが表2である。その結果、「海」、「自然」、「いわき駅（駅前）」、「アクアマリン」の4つを抽出することができた。「海」や「自然」は、先行調査・研究より他の年代においても抽出されているイメージであり、「アクアマリン」は沿岸の観光施設として、また交通の結節点であり、通学に利用している回答者も多い「いわき駅（駅前）」がこの年代における地域イメージとして抽出することができた。

## 4. イメージマップの作成にみる地域イメージ

### 4.1 エレメントにみる地域イメージ

最後の調査項目として、「いわき市のイメージマップ」を作成してもらった。そこで作成されたイメージマップについて、「都市のイメージ」<sup>1)</sup>を基に、「パス」、「エッジ」、「ディストリクト」、「ノード」、「ランドマーク」の5つに分類してエレメントを抽出した。2012年のイメージマップからは、総計978のエレメント（パス60、エッジ41、ディストリクト292、ノード221、ランドマーク364）を抽出することができた。全体として、やはり先行調査・研究の結果と同様に、各地区を描く形のイメージマップが多いことより、「ディストリクト」が最も多く29.2%の割合を占めており、地区単位でいわき市を捉えているという特徴が表れる形となっている。

### 4.2 作成例にみる地域の捉え方

イメージマップの作成例（方法）より、地域の捉え方をみてみると、同じく2012年においては「b：全体の輪郭がまず出来上がり、それから中心に向かって埋められていく例」が全体の71.4%を占めており、次いで「イメージが通り慣れた動線に沿ってまず形成され、次にそれから外に向かって発展していく例」が19.0%となっている。このことから、地区単位でいわき市を大きく捉えて、イメージする形が多いことを確認することができた。

### 4.3 イメージの特質

イメージの特質（例）についてみてみると、同じく2012年において、「c：柔軟な構造（各部分は他と連結されているが、その結びつきがゆるく、柔軟なもの。よく知っているパスに沿って、しかもよく知っているシークエンスに従って進行しているもの）」が57.1%の割合で最も多く、半数を占めている。次いで、「a：各種のエレメントがばらばらで、部分相互間に何らの構造も関係もないもの」が23.8%となっている。このこ

表2 地域イメージの抽出

イメージ	抽出項目
海	思い浮かぶもの、記憶に残るもの、大切なもの、好きなもの
自然	思い浮かぶもの、記憶に残るもの、好きなもの
いわき駅(駅前)	思い浮かぶもの、記憶に残るもの、嫌いなもの、変えたいもの
アクアマリン	思い浮かぶもの、記憶に残るもの、特色ある部分

とより、いわき市内の空間構造について、自宅のある地区と通学先の地区、通学時のルートなど日常生活において利用する空間を中心にイメージしているものの、エレメント間の関係性を構築することまではできない形が多いことがわかる。

### 4.4 イメージマップの分類

作成されたイメージマップについて、既往研究<sup>2)</sup>に基づき12種類に分類した。その結果、「A⑤：全体の輪郭を描く＋常磐線と磐越東線をセットで描く」が31.7%の割合で最も多くみることが出来る。次いで、「A③：全体の輪郭を描く＋まんべんなくディストリクトのみ」が29.2%の割合で多くなっており、両分類で半数以上を占める形となっている。イメージの特質においてもみることができたように、ディストリクトを中心に空間をイメージすることができているものの、細部についてまではイメージすることができない形となっていることがわかる。また、空間を形成する骨格として、鉄道をパスとして描いているイメージマップを多くみることが出来る。これは、日常、通学手段として鉄道を利用することが多いことが表れているということが出来る。

## 5. おわりに

本調査・研究の成果として、以下のことをあげることが出来る。

第一に、高専5年生（20歳前後）という年齢層における、いわき市の地域イメージを抽出することができた。また、先行調査・研究の成果に基づき、いわき市の地域イメージをより明確にすることができた。

第二に、地域イメージについて経年的な分析を通して、その変化と現状を明らかにすることができた。駅前再開発や沿岸の観光施設をはじめ、その年の特徴がイメージに反映されている形をみることができた。

第三に、イメージマップの作成を通して、地域イメージの捉え方を明らかにすることができた。日常生活に基づく、パスやディストリクトを中心に作成されている地図を多くみることができた。

今後、復旧・復興にむけて誰もが共有することのできる地域イメージを追究していくことが必要である。

### 参考文献

- 1) ケヴィン・リンチ：都市のイメージ、岩波書店、(1968)
- 2) Roger M. Downs & David Stea, 吉武泰水監訳：環境の空間的イメージ、鹿島出版会、(1976)
- 3) 齊藤充弘、根本智明：住民意識にみる広域合併都市のイメージについて：土木学会第64回年次学術講演会概要集部門IV pp.285～286、(2009)
- 4) 岩崎廣和、齊藤充弘：地域イメージの捉え方とイメージマップの作成について～いわき市を対象として～：土木学会東北支部技術研究発表会、IV-2、(2011)